

# ウミガメ保護45年



延岡市野生動物研究会の会合で贈られた花束を手にする田崎さん

これからも「浜」を大切に

## 82歳田崎さんが「引退」延岡

「浜を汚さないで。車の乗り入れもやめてほしい」と話すのは延岡市中島町の田崎洋さん(82)。県指定天然記念物アカウミガメの生態調査や保護活動に45年間携わってきたが、このほど、高齢による体力的な理由などで、周囲に惜しまれつつ一線から身を引いた。

田崎さんは写真家で、38歳の時に産卵のために浜に上陸してくるウミガメに魅せられ、写真を撮り始めたことが活動のきっかけ。撮影と観察の一

めに魅せられ、写真を撮り始めたことが活動のきっかけ。撮影と観察の一

識と経験を深めた。

「あのころは、夜になると砂浜に車を乗り入れてウミガメを積んで帰る人、食べるために卵を掘ったり、売る人もいた」と振り返る田崎さん。そういった人を見かけると注意し、時には調査に協力するよう説得したこともあったという。

その後は市や県の委託調査員として、ウミガメの保護などの活動に尽力。平成10年には延岡市野生動物研究会を立ち上げて会長に就任し、それ以来、県指定天然記念物となったアカウミガメの生態調査や保護活動の取

り組みなどを長年先頭に立って進めてきた。

ただ、こうした活動は砂浜を歩き続ける体力仕事。82歳の年齢、加えて以前に体調を崩した影響などもあり、「まだやりたい気持ちはあるが、体力が続かない」。探していた後任が見つかったことを機に、昨年度で研究会の会長を退くと同時に、退

会を決めた。

同研究会の会合が23日にあり、田崎さんの長年の活動に対して、ねぎらいの花束が贈られた。終了後、田崎さんは「浜にごみや車のわだちがある」と、ふ化した子ガメが海にたどりつかない」と述べ、美しい砂浜を残す大切さについての理解を促した。

また、ウミガメと同等に撮影や保護活動に力を入れてきた野鳥について話が及ぶと、「野鳥の写真撮影はまだやりますよ」と目を細めていた。

こうした一連の活動で田崎さんは、平成29年度の夕刊デイリー新聞「新開明る」で社会賞を受賞した。



# 祭前夜に4日 グランプリ指定を喜ぶ GGN、長距離界に貢献

第29回ゴールデンゲート  
ムスィンのべおかの前夜  
祭は4日、延岡市紺屋町  
のエンシティホテル延岡  
であり、出場チームの監  
督や関係者約130人が  
出席。健闘を誓い合った。  
日本陸上競技連盟の河野  
匡長距離・マラソンディ  
レクターは壇上で、「この  
大会の長距離界への貢献  
は言わずもがな。グラン  
プリにふさわしく、指定  
させていただきありがた  
い」と語った。

主権の実行委員会・福  
村正勝会長が「日本クラ  
ンプリシリーズは格上げ  
され、本当にうれしい。  
最高レベルの選手がそ  
ろったので、勝負に執念

を燃やし、東京五輪など  
へ向け、記録に挑戦して  
ほしい。読谷山洋司市長  
は「ほかの地域にはない  
選手と観客が一体となる  
大会。東京五輪への飛躍  
をお手伝いできれば」と  
歓迎した。

向珠夕さんも来場。選手  
を激励し、延岡アスリー  
トタウンサポーターズと  
ともに募金活動を行った。  
最後は恒例の参加チー  
ム監督のあいさつ。宗猛  
旭化成総監督らの合いの  
手などもありながら、「1  
月の延岡合宿の成果を出  
したい」延岡で勢いを付  
けたいシーズンに」と  
語っていた。

抱負を語る旭化成・西政  
幸監督